

高知港（特定港）における作業許可申請書（採水作業）の記載例

作業許可申請書

令和〇年〇月〇日

高知港長 殿

高知港：高知港長
その他適用港：高知海上保安部長

申請者所属・氏名

1 目的及び種類

<ポイント>
目的：工事・作業の目的を**具体的**に記載する。
種類：工事・作業の主な種類を**簡潔**に記載する。
(例：起重機船作業、深淺測量、浚渫作業 等)

目的：本作業は、水質環境基準の達成維持の状況を確認するために行う水質調査です。
種類：作業船による採水作業

2 期間及び時間

<ポイント>
・契約工期をそのまま記入せず、実際に工事・作業を行う期間及び時間を予備日を含めて記載してください。(期間中、数日しか作業しない場合は、実作業日数を記載願います。)

期間 自 令和〇年〇月〇日
至 令和〇年〇月〇日（予備日：令和〇年〇月〇日から令和〇年〇月〇日）
時間 日出から日没まで

3 作業区域又は場所

別紙（作業区域）のとおり

<ポイント>
・工事・作業区域を設定する場合、一般船舶への影響を少なくするため**必要最小限**の範囲としてください。
・作業区域等を表す場合は、**緯度・経度**若しくはできる限り海図に表示されている灯台等の**著名物標からの方位・距離**で記載願います。
・工事・作業を行う場合は、**作業区域と施工区域の範囲がわかる図面**を作成願います。(範囲・長さ等を〇mで記載)

4 施工方法

別紙（施工方法）のとおり

<ポイント>
・実施（施工）の順序に従い、簡潔明瞭に記載願います
・付近の可航幅が狭くなる作業については、図面に可航幅を明記願います。

5 その他

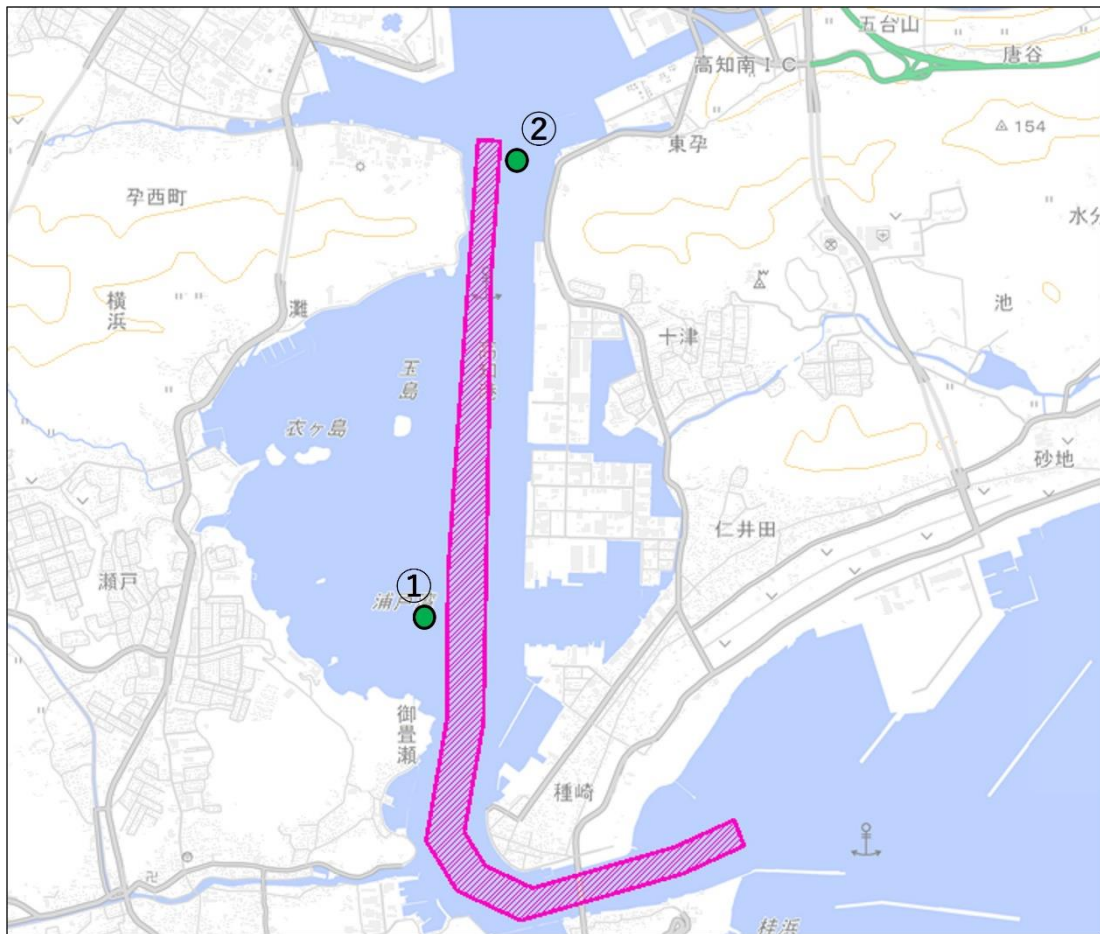
- (1) 事故防止措置
- (2) 緊急時の連絡体制図
- (3) 添付資料

<ポイント>
工事・作業の種類及び実施場所に応じ、次の事項に留意して具体的に記載願います。
・船舶交通に対する事故防止対策
・警戒船及び警戒員の配置状況並びに警戒要領
・油の流出、汚濁防止のための措置
・中止基準（風速、波浪、視界等）
・海域利用者への周知、調整状況 等

3 作業区域又は場所

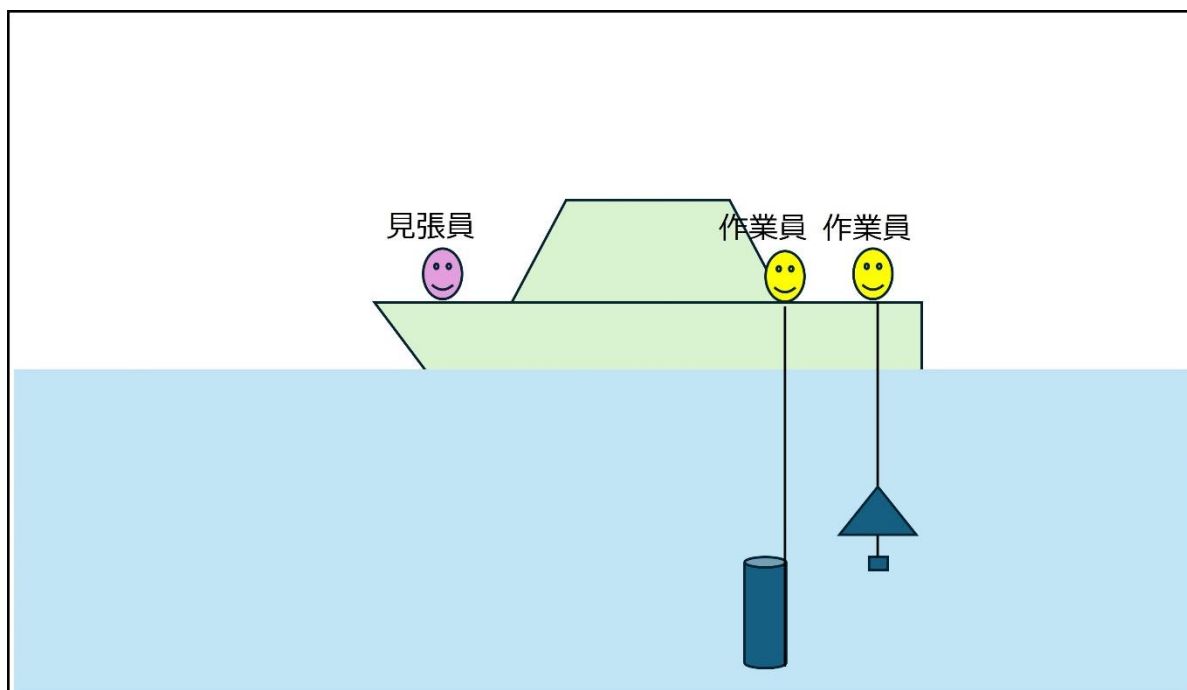
(1) 作業場所

場所	北緯	東経	
①	〇〇-〇〇-〇〇	〇〇〇-〇〇-〇〇	半径 20m の範囲
②	〇〇-〇〇-〇〇	〇〇〇-〇〇-〇〇	半径 20m の範囲



4 施工方法

- (1) 作業船により採水器を水中に投入し、目標水深に達した時点で採水器を開口し、海水を採取します。その後、手作業で作業船まで巻き上げます。
- (2) 目標水深は、表層（水面下 0.5m）及び中層（水面下 2m）です。ただし、水深が 5m 以浅の地点では表層のみとし、水深が 10m を超える場合は下層（水面下 10m）を追加します。
- (3) 作業時間は 1 地点当たり 5～10 分程度を予定しており、作業中は錨泊は行いません。



5 その他

(1) 事故防止措置

- ① 本作業の現場責任者を次のとおり定め、作業全般の事故防止措置等について監督し事故防止を図ります。

現場責任者：〇〇〇〇（連絡先：〇〇〇－〇〇〇〇－〇〇〇〇）

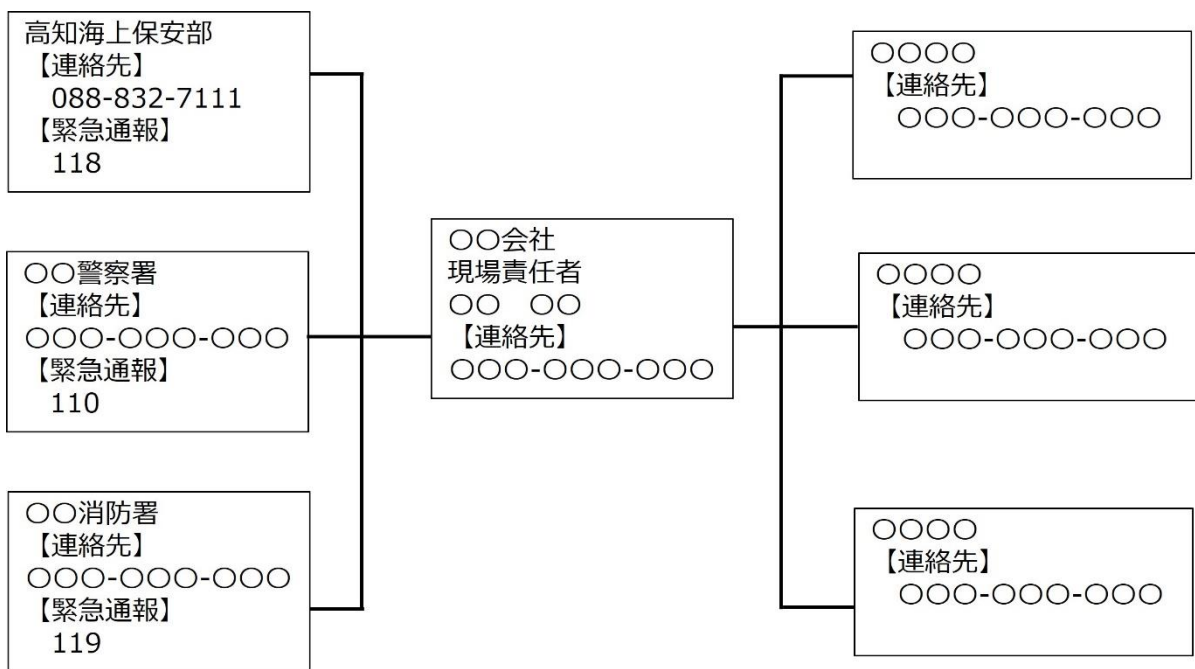
- ② 作業船には、赤旗・拡声器を所持した専従の見張員〇名を乗船させ、見張りを厳重に行います。また、他船の通航に支障があるときは、作業を一時中断し退避し、安全が確認された後に作業を再開します。
- ③ 作業区域に接近する船舶が確認された場合、赤旗、拡声器により注意喚起を促し事故防止を図ります。
- ④ 気象・海象を十分把握し、荒天が予想される場合又は次の基準に達した時には作業を中止します。

【作業中止基準】

風速：〇m/秒以上の場合 波高：〇m 以上の場合 視程：〇km 以下の場合

- ⑤事故発生時等の緊急時は、応急措置を講じるとともに、「緊急連絡体制図」により速やかに高知海上保安部へ連絡します。
- ⑥作業区域周辺の船舶関係者等（〇〇会社、〇〇漁協）に対し、作業内容を事前に説明の上作業を行います。
- ⑦許可内容に変更が生じる場合には、事前に変更許可申請を行います。
- ⑧作業許可書又は写しを現場に携行し、何時でも提示できるようにします。

(2) 緊急時の連絡体制図



(3) 使用船舶一覧

使用目的	船名	総トン数	船舶検査済票番号	船長名
作業船	〇〇〇	〇〇	〇〇-〇〇	〇〇 〇〇
警戒船	〇〇〇	〇〇	〇〇-〇〇	〇〇 〇〇

(4) 添付物

契約書又は発注証明書の写し 等